

悠久

第 51 号 October 2017

本号の内容

- | | | |
|-------------------------|----------------|-----------------|
| ①「学びあい」の姿勢で上海市との交流を続けたい | 社会福祉法人旭川荘 | 理事長 末 光 茂 |
| ② 岡山県高等学校文化連盟 国際文化交流 | 特別部会 | 文化交流委員長 片 山 峰 緒 |
| ③ 岡山市子ども海外派遣事業2017 | 岡山市市民協働局国際課嘱託員 | 梶 川 楠 |

『2017 STUDENT EXCHANGE in 岡山』交歓会



社会福祉法人旭川荘

理事長 末 光 茂



「学びあい」の姿勢で
上海市との交流を続けたい

旭川荘と上海市との交流が始まったのは、三十年以上前の一九八五年。当時、既に中国との交流のあった川崎祐宣川崎学園理事長からの紹介で上海市衛生局の王希孟局長らが来荘され、江草安彦理事長ならびに堀川龍一荘長が研修生の受入について合意をしたのが最初です。

以来、障害者や高齢者の医療福祉を学ぶために多くの研修生が旭川荘を訪れ、旭川荘からも「福祉の翼」など千名を超える視察団が中国を訪れました。この支援を受けて十年間行つた人材養成事業では、数百名の介護・福祉人材を育成しました。江草先生は長年にわたる功績により、上海市榮譽市民の称号を贈られています。

この事業が終了し江草先生が亡くなってからも、上海市との友好関係は絶えることなく続いています。私も何度か上海を訪れ、大変な歓待を受けました。

この二十年の経済面での発展ぶりには驚嘆するばかりです。しかし、日本以上にハイスピードで進む少子高齢化対策には苦勞しています。

中国でも高齢化率は十%を超え、施設の建設が急ピッチで進んでいます。上海市の介護体制は中国で最も先進的と言われており、来年一月には中国全土に先駆けて介護保険制度がモデル実施されます。そうした中、旭川荘で研修を受けた人達が指導的な立場で活躍しているのです。

今上海市からの視察団の全員が口を揃えて課題に挙げるのが、高齢者介護を担う人材養成です。

「日本の介護保険の実態をもっと教えてほしい」「今以上に質の高いサービスを提供できる人材を養成したい」「認知症のケア方法を習得したい」「介護予防の実践を学びたい」等々。さらなる高みを目指す要望者を挙げると、上海市民政局、黄浦区、普陀区、そして復旦大学看護学院などです。

上海市からの故江草安彦名誉理事長の写真展の提案や、日の障害児者の絵画展が話題に上るなど、新たな動きも出ています。

これからも、末永く友好交流を続けていきたいと考えています。



岡山県高等学校文化連盟 国際文化交流

特別部会 文化交流委員長
岡山県立岡山南高等学校

主幹教諭 片 山 峰 緒

招 聘

上海市陸行中学を七月二十一日から
四泊五日の日程で招聘した。

【二日目：七月二十一日（金）】

陸行中学の一行はこの日関西空港着のフライトで来日し、空港近くで軽い昼食を取った後、岡山に入る前の観光として姫路城に向かった。ところが、入国に時間がかかり時間が押していたため、姫路城見学の時間が取れないことがわかり、急遽行き先をカフエド・ミキ・ウィズ・ハローキティに変更した。そこで暫し休憩を取り、出迎えた。

岡山県高等学校文化連盟の国際文化交流事業として、岡山南高校邦楽部は、七月から八月にかけて上海市陸行中学と国際文化交流を行った。七月下旬に上海市陸行中学を招聘し、八月月中旬に本校邦楽部が派遣された。招聘時は陸行中学から十二名の生徒と引率教員三名の計十五名が来日し、岡山県からは本校邦楽部の生徒十二名と引率教員三名の計十五名が訪中した。

交流実施にあたっては、五月中旬に岡山県日中教育交流協議会の岡本啓会長、松井三平事務局長、県高文連の浅沼淳会長、森野啓司事務局長、と私が事前調査団として訪中した。そこで、上海市人民対外友好協会、浦东新区教育局、そして陸行中学から熱烈な歓迎を受け、交流打ち合わせと施設見学を行った。五月下旬には結団式が行われ、その後中国語学習会、事前保護者会と文化交流の準備を順次行った。



関係者の待つ岡山シティホテルに向かった。ホテルに到着次第記念撮影を行い、夕食を手渡して部屋で休んでもらった。

【二日目：七月二十一日（土）】

午前中は本校誠友会館にて邦楽部の歓迎交流会を行った。琴の演奏に続き、茶道体験（並行して折り紙体験）やビンゴゲームを行って交流した。午後からは後樂園見学に出かけた。その後、イオンモール岡山に移動し、邦楽部員とともにシヨッピンングを楽しんだ。そして夕刻には、メルパルク岡山にて対面式と歓迎レセプションを行った。



【二日目～三日目：ホームステイ】

陸行中学の生徒二人ずつがペアになり、本校邦楽部の生徒の家庭に二日間宿泊した。陸行中学の生徒とホストファミリーは、日本語や英語、そして中国語を使って交流し、互いの学校の様子等を語り合ったようである。

【三日目：七月二十三日（日）】

マービーふれあいセンターで開催された「高校生芸術フェスティバル二〇一七」にゲスト出演した。リハーサル時間も取れないまま大急ぎで準備し、慌ただしくステージに上がった陸行中学の合奏団であったが、中国の民族音楽を見事に演奏し聴衆を魅了した。会場で昼食を取った後、倉敷美観地区の観光に出かけ、その後は三名の引率教



員とは別行動で南高ツアーに参加してもらった。行き先は鷺羽山ハイランドである。日曜日の夕方ということもあり、園内は非常に空いており、ジェットコースター等の乗りものに並ぶことなく乗ることができ、思う存分楽しんだようである。日が落ちる頃には夕日がきれいな瀬戸大橋まで足を延ばした後、ホストファミリーの待つ学校に戻った。



【四日目：七月二十四日（月）】

ホームステイ先から学校に到着後、直ちに体育館で全校生徒による歓迎式を行った。文化交流の経緯説明に続き、本校校長と誠友会会長（生徒会長）の歓迎の挨拶、校歌斉唱、陸行中学副校長と代表生徒の謝辞で会を終え、その後は大急ぎでバスに乗り込み、蒜山方面への文化体験に出かけた。まず、津黒高原でそうめん流しの昼食を取り、雄大な蒜山高原を眺めながらブルーベリー狩りを行い、続いて蒜山高原センターにてアイスクリーム作りを体験した。岡山に戻った後は、日本での最後の交流となる送別会を岡山シティホテルで開催した。



【五日目：七月二十五日（火）】

県高文連の関係者に見送られ、早朝ホテルを出発して大阪に向かった。夕方の帰国便に乗るまでの間、道頓堀の散策、あべのハルカス見学を行った。

空港でのチェックインでは持参した楽器がサイズ（ウェイト）オーバーで手続きに時間がかかり、免税店での最後のショッピングも思うようにできない事態になったが、定刻に飛行機は離陸し、帰国の途についた。



訪問

岡山南高校邦楽部は、八月九日から四泊五日の日程で上海市を訪問した。

【二日目：八月九日（水）】

浦東空港の混雑により、フライトが約一時間遅れ、さらに預けた荷物がいくつか出てこないというトラブルに見舞われ、陸行中学への到着が大幅に遅れた。途中、琴を借用するため日本人学校（浦東校）に寄り、学校到着後はすぐに昼食をいただき、最初の交流会（団扇作り）に臨んだ。夜は隣接するレストランで歓迎会を開いていた。早速ホストファミリーとの対面となった。宿泊は高速道路を挟んで真向かいにあるホリデイン上海金橋というホテルであった。



【二日目：八月十日（木）】

午前中は上海戲劇学院の見学、午後には上海万博会場の中国館見学であった。上海戲劇学院は演劇関係の超難関大学ということもあってレベルの高さを感じた。また、昼食後に訪れた中国館では大規模なプロジェクト展示マッピングでの展示があり、スケールの大きさに圧倒された。学校に戻ってから



は二人一組でホストファミリーのもとへ向かった。



【二日目・三日目：ホームステイ】

それぞれの家庭で様々な歓迎の品物をいただいたようである。また、夜景の美しい東方明珠の観光やショッピングにもつれていってもらい、大変楽しい二日間だったようである。日本でのホームステイでは親密になるところまではいかなかったようであるが、上海でのホームステイで一気に互いの距離が縮まったと聞いている。

【三日目：八月十一日（金）】

午前中はリハーサル、午後からは地域の方や在校生を前に演奏会が行われた。会場は特設ステージが組まれ、音響も卒業生のボランティアスタッフが担当してくれて、大変恵まれた環境の

中、演奏を行うことができた。琴の演奏は大変美しいと好評で、お褒めの言葉をたくさんいただいた。



【四日目：八月十二日（土）】

午前中は豫園、午後は外灘の観光であった。豫園は中国の古い町並みを再現した観光地で、多くの観光客で大変



混雑していた。昼食ではこの豫園で最も有名なお店で小籠包をいただいた。外灘では急スコールに見舞われてびっくりにしたが、西安のテレビ局の取材を受けるなど、思い出深い観光となった。夜は歓送会（送別会）が行われ、ホストファミリーと最後の食事を共にした。

【五日目：八月十三日（日）】

宿泊していたホリデイン上海金橋から専用バスで近くのショッピングモールに連れていってもらい、手ごろな価格のお土産を購入した。その後、最後の交流ということで校内散策と記念撮影を行い、交流生徒に見送られて、浦東空港に向かった。若干預け荷物の開封確認があったりしたが、比較的スムーズにチャックインを終え、陸行高校の先生方に最後のお別れを告げて帰路についた。岡山空港では帰りを



待つ家族や県高文連関係者の出迎えをいただき、笑顔で帰国することができた。



おわりに

平成二十三年度に総社高校吹奏楽部でこの文化交流事業に参加させていただいて以来、六年ぶりの参加となった今回の岡山南高校邦楽部の国際文化交流であったが、前回以上に親密な文化交流が実現し、次年度以降この事業が益々発展していくことが期待できる内容であった。

前回の交流体験を活かして準備を進めることができたので、十二名の募集も容易であっただけでなく、招聘の計画や派遣の準備も順調に進み、七月の招聘を迎えた。

招聘では、学校での歓迎交流会や岡

山・倉敷観光、そして演奏会、県北での文化体験という内容を、いかに楽しんでからおうかと考えていろいろ準備した。しかし、わずか三日間という非常に短い滞在のため、感想をお聞きする間もなく、満足してもらえないような交流になったかどうか少し気がかりなまま、関西空港からの帰国を見送るようになってしまった。

続いて派遣では、八月六日の邦楽コンクールを終え、期待と不安を胸に岡山空港を旅立ち、一路上海に向かった。到着後すぐの交流校での中国文化体験、交流演奏会やホームステイ、上海市内の観光等、あつという間の五日間を過ごし、帰国の途についた。「岡山での楽しい五日間のお返しに周到に準備した」とのことでしたが、我々のおもてなし以上に良くしていただき、生徒も引率教員も恐縮してしまいうような素晴らしい内容であった。

このたび本校邦楽部員十二名は、岡山県高等学校芸術文化連盟主催の国際文化交流に、日本音楽部会の代表として参加させていただいたが、参加した十二名の部員にとって、生涯忘れることのできない貴重な体験になったことは言うまでもない。相互の訪問を通して生徒たちは中国という国や国民に対する見方も大きく変わり、大きく視野を広げることができたと思う。また、参加した生徒たちは、海外に友人を持つという大きな宝物を得て、一回り成長したような気がする。今後も末永くこの事業が継続されること願って報告を終えたい。

岡山市子ども海外派遣事業2017 (中国・洛陽市)

引率者 岡山市市民協働局国際課嘱託員 梶 川 楠

岡山市は、世界の六都市・二地域と友好交流の協定を結び、異なる歴史や文化、言葉や習慣の違いなどを越えて、文化・スポーツ・教育など幅広い分野での交流を通じて、相互理解と友好親善の促進に努めています。

様々な交流が行われていますが、今回は今年の夏に四つの都市と一つの地域へ岡山市の中学生総勢四十四名を派遣した岡山市子ども海外派遣事業の中から中国洛陽市への派遣についてご紹介します。

この事業は、岡山市国際交流協議会、岡山市、岡山市教育委員会の主催により、岡山市内の中学生を国際友好交流都市・地域へ派遣し、ホームステイをしながら、海外の家族や子どもたちとのふれあいを通して国際的視野を広げ、多様な文化への理解と国際交流の促進を図るとともに、交流を通じて岡山の魅力在海外へ情報発信することを目的としています。

平成六年度にスタートしたこの事業は今年度で十八回目を迎えます。その中でも平成七年度から始まり今回で十三回目となる中国洛陽市への派遣では、八月一日（火）から八月八日（火）の日程で、中学生八名と引率者一名が参加しました。洛陽市では八家庭のホストファミリーをはじめ、洛陽市人民政府外事務弁公室、洛陽市国際友好交流中心、洛陽外国語学校、中国三彩芸術館及び洛陽三彩芸術園郭愛和三彩工作室等の協力と支援を受け、両市生徒の交流プログラムが実施されました。

一日目、岡山空港を出発し、上海で国際線から国内線へ乗り継ぐなど、移動だけで早朝から深夜までかなりの時間が



岡山空港にて出発式

かかりました。岡山の生徒にとって初の中国は、上海市内の高層ビル群、空港の広さ、中華料理の丸テーブル文化とその豊富な種類と量の多さなどに驚きの連続でした。

二日目の午前は、河南省の省都である鄭州市と洛陽市の間に位置する登封県西部へ向かい、少林寺を見学しました。日本でも人気のある少林寺拳法の演舞を本場で見学し、その迫力に生徒たちは魅了されていました。また、インドから渡来した達磨大師が禅宗を伝えたという少林寺の持つ長い歴史と精進料理にも感激している様子でした。午後は、車で洛陽市へ向かい、世界遺産の洛陽龍門石窟を見学しました。歴史と世界遺産に特に興味を持つ生徒数人は、大いに興奮し、至るところにある仏像に向かってカメラのシャッターを切り続けていました。その他の生徒も、「凄い」と驚きの声を上げるなど、表情豊かな様子で、千体も彫られていた万仏洞、そして盧遮那仏があり最大規模を誇る



洛陽龍門石窟

の声を上げるなど、表情豊かな様子で、千体も彫られていた万仏洞、そして盧遮那仏があり最大規模を誇る



歓迎夕食会にて中国語で岡山を紹介

奉先寺などに目を奪われていました。その日は、洛陽市人民政府が主催する歓迎夕食会に参加しました。洛陽市外事弁公室の張主任をはじめ、

め、ホストファミリーや今回の交流事業にご協力くださった関係者の方々から熱烈的な歓迎を受け、和やかなムードで生徒たちの交流が行われ、楽しい歓迎夕食会の時間はあっという間に過ぎていきました。八名の生徒はこれからお世話になるホストファミリーと共にそれぞれの家庭に向かい、七日間のホームステイが始まりました。

三日目、洛陽外国語学校の先生と生徒たちによる盛大な交流会が行われました。日本語部の生徒が流暢な日本語で司会を務め、各学年の特技を持つ生徒達が様々なパフォーマンス（オカリナ、



能楽を披露



日本と中国の生徒が書道で交流



中国の生徒による日本舞踊

笛、古箏、日本舞踊など」を披露してくれました。岡山の生徒も日本の伝統芸である能楽、空手、少林寺拳法などを舞台で発表しました。最後に書道で日中生徒のそれぞれの思いを込める四文字をしたため、また岡山の「うらじゃ祭り」の映像を見ながら楽しく踊り、交流会場は全員で盛り上がりました。出し物の披露が終わった後、日本語部の生徒たちと一緒にバスケット、卓球、バドミントンなどのスポーツも楽しみました。僅か半日の交流でしたが、日本の生徒はホストフレンド以外にもたくさんさんの友達ができ、とても有意義な交流となりました。



郭愛和氏(写真左)と生徒

さった方々には大変感謝しています。午後には、連続して猛暑日が続く中、百五十年前から中心地に残されている古い街並み「老城区」を散策。生

四日目、中国生徒との一日交流プログラムに参加しました。午前は、まず洛陽師範大学の伊濱学区にある中国三彩芸術館を見学し、中国の歴史上最も有名な唐三彩について多くの知識を学びました。日本だけでなく様々な国々が洛陽発祥の三彩文化の影響を受けており、古都・洛陽と深い繋がりがあることなどについて解説がありました。生徒は展示されている三彩磁器やデジタル映像を夢中になって見入っていました。次に工房で行った三彩磁器の制作体験では、洛陽の三彩陶磁器作者であり人間国宝の郭愛和(かくあいわ)氏がサプライズで現地に駆けつけてくれ、最高の歓迎に一同感激しました。このプログラムは洛陽理工学院芸術設計学院長の曲紅升(きよく こうしょう)氏に企画していただいたものです。氏は二〇〇七年に岡山市と洛陽市の交流事業である技術研修生相互派遣の研修生として選出され、岡山市で約一年間滞在された方です。かつての交流が新たな交流につながっていることにとても感動するとともに、氏をはじめ、ご協力くださった方々には大変感謝しています。午後には、連続して猛暑日が続く中、百五十年前から中心地に残されている古い街並み「老城区」を散策。生



空海像の前で日中友好について語り合い

徒は昔ながらの建物と店先に並べられている中国の飾り物に興味津々でした。次に、二〇一一年四月にオープンした洛陽博物館新館を見学しました。洛陽博物館は大規模な総合博物館として中国の一級博物館と定められ、社会教育、文物収蔵、科学研究など様々な機能を果たしています。生徒はグループに分かれ、中国の生徒に日本語で案内してもらいながら、広い博物館の中を見学しました。生徒からは、「珍宝館」中の展示物は凄かったとか、昔の陶人形が可愛かった、書画展は迫力を感じたなど、感動の声が聞かれました。

五日目から七日目までの三日間は、ホストファミリーと一緒にゆつくりと過ごしました。各家庭が様々な企画を用意してくれており、郊外の避暑地で山紫水明の大自然との触れ合いや白馬寺での歴史探検、家族全員で餃子作り体験、太極拳発祥の地で師匠に師事して太極拳の体験、ホストフレンド同士が連絡を取り合って皆で動物園、遊園地、カラオケなど、様々な体験で生徒たちは楽しく過ごすことができました。



笛の職人に指導を受ける



自分たちで作った餃子を食べながら

八日目の朝、一週間のホームステイが終了し、ホストファミリーが見送る中、洛陽空港を出発しました。涙を拭きながら別れを惜しむ日本と中国の生徒たちの姿を見て、言葉と文化の壁を感じながらも、友情の花がここで咲き始めたことに私は心から喜びを感じました。

今回の事業に参加した生徒はこのプログラムを通じ、海外の人と交流する楽しさ、難しさ、異文化に対する理解と柔軟な対応の大切さ、外国語を勉強しもっとコミュニケーションを取ろうとする意欲など、多くのことを経験し学んだことと思います。この経験が生徒たちの成長に繋がり、人生において貴重な財産になることを願います。

岡山市は今後も引き続き、子どもたちの国際交流・国際理解を深めるための事業に積極的に取り組んで行きたいと考えます。



岡山商科大学孔子学院



中国語講座

2017年度 8レベル展開 計18回
※途中からの受講可能



特訓コース

新HSK試験5級をめざす
月・水・金曜日 計90回



子供向けコース

毎週土曜日(11:00~12:00)
全15回



出張中国語講座

簡単な日常会話から本格ビジネス中国語まで
対応します。内容は相談に応じて調整いたします。



出張中国文化講座 (開講料無料)

岡山県内の小学校、中学校、高校及び公民館を
対象とした出前中国文化講座を開講いたします。

お問い合わせ／お申し込み 岡山商科大学孔子学院 〒700-8601 岡山市北区津島京町2丁目10-1
TEL 086-256-6670 (直通) FAX 086-255-6947 <http://www.osu.ac.jp/koushi/>



学校法人 中国学園

中国学園大学

- 現代生活学部人間栄養学科 ●子ども学部子ども学科 ●国際教養学部国際教養学科
- 大学院(現代生活学研究科 子ども学研究科)

中国短期大学

- 総合生活学科 ●保育学科 ●情報ビジネス学科 ●専攻科(介護福祉専攻)

〒701-0197 岡山市北区庭瀬83番地 TEL086-293-1100 FAX086-293-3993
<http://www.cjc.ac.jp/> E-mail t-bosyu@cjc.ac.jp

学校法人 加計学園

岡山理科大学附属高等学校

平成30年度「新しい科・コース」・「新しい制服」そして「新しい学び」がはじまります

【普通科】

- ・グローバルサイエンスコース *New*
- ・インターナショナルコース *New*
- ・スポーツサイエンスコース *New*

【教育学科】

〒700-0005 岡山市北区理大町1-1
Tel (086) 256-8527 Fax (086) 256-8526
フリーダイヤル 0120-209817
URL: okayama.ridaifu.net



赤ちゃんからお年寄りまで、
ひとりひとりの「よく生きる」のために。

ベネッセグループは、教育 / 語学 / 生活 / シニア・介護の分野でお客様一人ひとりの「Benesse」を
支援する事業を展開しています。 Benesseは、フレン語の bene(よく) と esse(生きる) を一語にした造語です。



株式会社 ベネッセホールディングス 岡山本社 〒700-0807 岡山県岡山市北区南方3-7-17 <http://www.benesse-hd.co.jp/>

岡山県日中教育交流協議会 会報『悠久』第51号

発行：平成29年10月／発行者：岡山県日中教育交流協議会 編集委員会
〒700-0902 岡山市北区錦町5-15 南田辺ビル2階 TEL (086) 225-5083 / FAX (086) 225-5041